

(5) 飯伊地域 ～食・人・文化 新たな出会いが生み出す南信州農業～

重点戦略1：多様な担い手の育成による地域農業の再編と企業的農業経営の展開

目標指標	H22 基準年	H27		H29 目標年
		計画	実績	
40歳未満の新規就農者数（単年度）	24人	28人	29人	28人
認定農業者数	687人	680人	655人	690人
農業生産法人数	79組織	92組織	97組織	93組織

<施策の取組状況>

- 就農相談や各種新規就農支援事業等を活用した新規就農者の確保・育成
 - 新規就農者激励会（1回）、青年農業者活動成果発表会（1回）、里親研修情報交換会（1回）等の実施や就農事例集、経営事例集を配布、里親研修（研修生6名）や青年就農給付金を活用した就農支援に取り組みました。（準備型8名、経営開始型44名が活用）
- 農業後継者等の企業的経営志向や組織の法人化等への支援
 - スキルアップセミナーや信州MBA研修受講者等の意欲のある農業者（6名）を対象に、経営理念の確立・経営計画の樹立に向けた個別課題の解決を支援するとともに、法人の事業継承計画の作成を支援しました。（1法人）
- 帰農塾、スキルアップセミナー等の開催による技術・経営力及びマーケティング力の向上支援
 - 帰農塾（基礎講座6回、専門コース（6品目、各4～5回）、スキルアップセミナー（基礎コース5回延88名、市田柿コース5回延66名）の開催により技術・経営力及びマーケティング力の向上を支援しました。
- 農地中間管理事業等による農地の利用集積や樹園地継承体制の構築
 - 地域集積協力を活用した地域の話合いによる農地の利用集積に取り組みました。（2町村、4地域）
 - 農地中間管理機構の中間管理機能を活用した樹園地継承モデル事業に取り組んでいます（1か所、30a）
- 「人・農地プラン」の見直し推進
 - プランの見直しと担い手への農地集約を推進するため、全市町村へのキャラバンを実施するとともに、集落懇談会（7地区）に参加するなど、見直し支援に取り組みました。



【スキルアップセミナー（機械実習）】

<今後の展開方向>

- 就農作戦会議の開催や経営事例集等の活用などにより新規就農者の確保育成を推進します。
- 農業後継者等（6戸）への経営管理能力向上の支援と法人化への個別指導を実施します。
- 農地中間管理事業の重点4市町村を中心し、機構集積協力金等を活用した農地集積を推進します。
- 地域の話合いに基づく人・農地プランの見直し（14市町村）を推進します。

重点戦略2：新技術や新品種の導入によるりんご、なし、かきの生産振興

目標指標	H22 基準年	H27		H29 目標年
		計画	実績	
りんご新しい化栽培面積	14ha	70ha	51.6ha	100ha
なしジョイント仕立て栽培面積	0.2ha	3.2ha	1.35ha	5ha
かきの栽培面積	511ha	525ha	514ha	530ha

<施策の取組状況>

○ りんご新しい化栽培の推進

- 新しい化取り木ほ場の巡回による管理指導及び現地検討等を実施（3回）するとともに、栽培導入者に対し、苗木の育成・凍害対策等研修会と剪定講習会を開催しました。（2回）

○ りんごの県オリジナル品種の生産拡大

- 秋映、シナノスイート、シナノゴールドの成熟期予測情報の提供（9～10月、各5～6回）を行うとともに、栽培管理指導会を開催しました。（摘果・収穫・剪定、3回）

○ なしジョイント仕立て栽培の技術確立と普及拡大

- 試験場と連携し、栽培技術と省力・軽労化研修会及び側枝確保技術検討会を開催しました。（各1回）



【ジョイント仕立て省力・軽労化研修】

○ 遊休農地等の活用による原料柿の生産振興

- 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金等の情報提供を行い市田柿の植栽（交付金活用20a）を推進しました。
- 若者に向けた新たな食べ方の提案等による需要掘り起こしを図るため、実需者への提案会（1回、17社）や銀座NAGANO等、県内外でプロモーション（4回、参集者466名）を行いました。

○ 適樹勢の維持・病虫害防除の徹底・適期収穫による原料柿の品質向上

- 良質な原料柿の生産のため、主要病虫害（円星落葉病、カイガラムシ）の発生予察情報を提供するとともに、指導会及び巡回で適期防除を推進しました。（6～9月）
- 熟度調査を実施し、標高別成熟期予測情報の提供（10月以降 毎週1回）を行い、適樹勢を維持するための樹体管理や施肥の指導会（2回）、剪定指導会（3回）を開催しました。

○ 無核大粒有望品種の生産振興による新たなぶどうの産地づくり

- シャインマスカット、ナガノパープルの栽培講習会（各1回）の開催による技術高位平準化と成熟期予測情報の提供による適期収穫の徹底に取り組みました。
- ナガノパープルの裂果防止対策を検討するための実践展示ほを設置しました。（1か所）

<今後の展開方向>

- りんご新しい化栽培を推進するため、フェザー苗木の安定供給に向けたM9取り木母株の養成支援及び新しい化優良園の事例調査を行います。
- なし園地の若返り推進のため、ジョイント仕立て栽培を推進するとともに補助事業による導入を促進します。
- 市田柿の新たな需要掘り起こしによる消費拡大を図るため、若者やワイン愛好家に向けた新たな食べ方提案（PRイベント2回）を行います。
- 高品質なシャインマスカット、ナガノパープルを生産するため、適正な房型づくり指導会の開催による技術向上や適期収穫の徹底を図ります。

重点戦略3：果菜類や新興野菜の推進による複合産地の構築

目標指標	H22 基準年	H27		H29 目標年
		計画	実績	
きゅうり、トマト栽培面積	89ha	100ha	90ha	100ha
アスパラガス栽培面積	84ha	94ha	83ha	100ha
いちごの栽培面積	5ha	6ha	6.6ha	6ha
白ねぎ等新品目栽培面積（ねぎ、スッキニ）	9ha	※25ha	23ha	※30ha(12ha)

（※はH26年度実績及び今後の方針を踏まえ、H29年度目標を上回る値を設定）

<施策の取組状況>

○ アスパラガスの施設化、白ねぎの機械化一貫体系の推進

- 県の助成を活用した雨よけ施設（32棟）や、JAポット苗の供給（190a分）によるアスパラガス面積の維持・拡大や、ねぎ関連機器・施設等（伏せこみハウス3件）の導入支援に取り組みました。

- **優良品種の選定・導入（きゅうり、白ねぎ等）**
 - きゅうり、トマト、白ねぎ等（5か所）で品種比較試験を実施し、ほ場巡回検討会等により地域に適した品種の選定・導入を検討しました。
- **単収向上及び連作障害回避のための栽培技術高位平準化**
 - アスパラガスの高単収に向けたモデルほ場（10か所）を設置し、定期巡回指導を行い栽培管理と収量向上の効果の検証と、栽培管理チェックシートを活用した現地指導会等を開催しました。（5～7月）
 - 夏秋いちごで土壌消毒、無病苗確保による炭疽病、萎黄病対策とその効果を検証しました。
- **ズッキーニ等の市場性の高い新品目の検討及び導入促進**
 - ズッキーニ、オクラ等の導入推進と生産上の課題を把握するための巡回検討を行いました。（7月）
- **複合経営モデル指標の作成及び複合経営体の育成**
 - アスパラガス+市田柿の複合経営事例を作成し、帰農塾受講生（30名）や柿生産者（200名）に複合経営の提案を行いました。
- **環境にやさしい農業の推進と農畜産物の販売促進**
 - 水稲、なす、トマトの実証圃（3か所）を設置し、成績検討会等（7～11月）を実施するとともに、直売所等における環境にやさしい農産物の販売促進のための研修会（2回）などを開催しました。
- **食品産業との契約取引の拡大**
 - 「食の縁結び！南信州うまいもの商談会」を県内・県外で開催（各1回）し、生産者と実需者のマッチングに取り組み小売店や仲卸等との取引に結びつきました。（19件）



【環境認証取得者間のほ場巡回研修】

＜今後の展開方向＞

- アスパラガスの施設化優良事例調査と施設仕様検討などによる施設化の推進及び新規生産者向けの栽培講習会の開催による面積拡大に取り組みます。
- トマト、カラーピーマンの連作障害回避のため、隔離床養液栽培（ココバック等）を推進します。
- 環境にやさしい農産物認証取得者相互のほ場巡回検討会の開催等による取組拡大を図ります。
- 実需者の要望に応じた生産拡大や加工品開発の支援及び商談会等によるマッチングを支援します。

重点戦略4：特産農畜産物のブランド化と6次産業化の推進

目標指標	H22 基準年	H27		H29 目標年
		計画	実績	
伝統野菜の栽培面積	8.2ha	9.3ha	8.0ha	10ha
ダリアの生産面積	2.8ha	4.3ha	3.8ha	5ha
脱針化による市田柿の生産量	869 t	1,800 t	2,037 t	2,000 t
六次産業化法に基づく総合化事業計画の認定数	0件	※12件	11件	※15件(10件)

（※はH26年度実績及び今後の方針を踏まえ、H29年度目標を上回る値を設定）

＜施策の取組状況＞

- **「キヌヒカリ」から「風さやか」への転換と転作品目として飼料米などの取組を拡大**
 - 「風さやか」の安定生産等に向け登熟積算気温及び適正施肥調査試験ほ（1か所）を設置しました。
 - 稲WCSの生産体系等の構築に向け収穫作業の外部委託による面積拡大に取り組みました。（2町、155a）
- **伝統野菜のフェアや商談会等による認知度の向上**
 - 伝統野菜フェア（1回）の開催や南信州うまいもの商談会（2回）への参加など伝統野菜の認知度向上に取り組みました。
- **伝統野菜の生産組織の維持強化による生産拡大**
 - 新たな伝統野菜の掘り起し（赤石紅にんにく、志げ子なす）とともに、下栗芋のウイルスフリー対策、清内路かぼちゃの系統選抜等、品質向上と安定生産技術の課題解決を支援しました。

- 茶の台切り更新による単収増と品質向上
 - 台切り等更新の実証展示ほ場（3か所）を設置し、展示ほを活用したステージ別講習会（各3回）を開催しました。

○ 農産物生産に係るGAPの推進

- 直売所等へのGAP啓発巡回（3か所）とGAP・環境認証に係る直売所指導者研修会等（2回）を開催しました。
- 市田柿の衛生管理マニュアル及びチェックシートを見直し、全戸配布（10月4,250部）したほか、加工研修会（1回）や出荷目揃え会（1回）、店頭流通調査（愛知県）を実施しました。



【伝統野菜フェア】

○ 肉用優良繁殖雌牛の選抜による肉牛改良の促進

- 育種価等の情報提供に加え、和牛繁殖農家（5戸）を対象に繁殖成績の調査、血液や栄養度診断、飼料給与プログラムの検討による繁殖検診、飼養管理技術改善検討会を実施しました。

○ 需要期に向けたダリアの秋出荷量の拡大

- オリジナル品種選定に向け開花検定に取り組み、有望と思われる品種を選定（5品種）しました。

○ 六次産業化法に基づく総合化事業計画の策定支援

- 総合化事業計画の策定希望者への個別相談（4件）や計画申請支援（1件）を行うとともに、補助事業を活用した施設整備等（2事業者）の支援を行いました。

＜今後の展開方向＞

- 「風さやか」の安定生産と品質確保に向けた施肥体系の確立と登熟積算気温による成熟期調査の実施と転作品目としての稲WC Sの生産拡大に向けた取組を推進します。
- 農産物直売所等へのGAP啓発巡回と研修会等の開催によるGAPの普及拡大を図ります。
- 六次産業化法に基づく総合化事業計画策定や事業化への個別支援、認定事業者のフォローアップに取り組みます。

重点戦略5：安心して暮らしやすい農村の創造

目標指標	H22 基準年	H27		H29 目標年
		計画	実績	
野生鳥獣による農作物被害額	14,880万円	12,400万円	12,535万円	12,000万円
遊休農地の再生・活用面積（単年度）	47ha	60ha	76ha	60ha
地域ぐるみで多面的機能支払等取組面積	1,335ha	2,429ha	2,500ha	3,019ha
基幹的農業水利施設更新による受益面積 （累計面積）	500ha	500ha	500ha	1,350ha

＜施策の取組状況＞

○ 地域の実情に応じた侵入防止柵の整備

- 侵入防止柵（5市町村、27.6km）を国庫事業により整備するとともに、侵入柵の維持管理対策と捕獲活動指導会（1回）を開催しました。

○ 野生鳥獣を寄せ付けない集落環境整備の実践及び集落ぐるみ捕獲体制の確立

- より効果的・広域的な鳥獣対策を推進するため、市町村担当者情報交換会（2回）を開催したほか、若手ハンター等の担い手育成のための体験講座（1回）や指導者成研修会（1回）を開催しました。

○ 多面的機能支払及び中山間地域直接支払を活用した生産活動の維持と国庫交付金等を活用した耕作放棄地の解消

- 市町村と連携し、多面的機能支払交付金の情報発信や現地に出向い説明会（5市町村）を行い、活動組織と対象面積の拡大を図りました。（7→12市町村、749ha増）



【くくりわな初心者講習】

○ **基幹的農業水利施設の長寿命化及びため池の耐震対策による安全な農村づくりの推進**

- 竜西一貫水路の水路橋の耐震対策を県営農村地域防災減災事業で行いました。(飯田市 L=60m)
 - 竜東一貫水路の長寿命化工事を県営かんがい排水事業で行いました。(喬木村、豊丘村 幹線水路の補修 ΣL=603m)
- 〈平成 27 年度までの支線以下の完了受益面積は 564ha〉

＜今後の展開方向＞

- 地域の実情に応じた計画的・効果的な侵入防止柵の整備を支援します。
- 大型捕獲檻の設置など集落ぐるみの捕獲体制の整備、情報交換会等の開催による効果的な対策や広域連携を推進します。
- 多面的機能支払交付金を活用し、農地・水路等の保全活動及び補修等の質的向上活動を支援します。
- 中山間地域等直接支払制度の事業拡大や新たな加算措置等への取組を推進します。
- 竜西一貫水路、竜東一貫水路の補修、更新を計画的に実施します。

重点戦略 6：地産地消と地域の食文化に対する理解の促進

目標指標	H22 基準年	H27		H29 目標年
		計画	実績	
都市農村交流人口	190,758 人	201,300 人	184,415 人	205,000 人
学校給食県産農畜産物利用率	38.8%	45%	46%	45%
販売額 1 億円超直売所数	4 か所	5 か所	5 か所	6 か所

＜施策の取組状況＞

○ **農家民宿組織等の農山村資源の積極的な活用等による事業推進への支援**

- 農山村資源を活用したグリーン・ツーリズムの研究会（1回）やSNSを活用した情報発信方法の研修会（1回）を開催しました。

○ **地域食文化にふれあう食育イベントや世代間交流等による農村・地域コミュニティの場や機会づくりの推進**

- 小学校と連携し、市田柿を使ったおやつ作りや干し柿作り体験（7校、392名）開催、また市田柿の日 in 銀座 NAGANO で都市居住者を対象に干柿づくり体験（66名）を行いました。



【市田柿の日 in 銀座 NAGANO】

○ **伝統野菜等特徴ある商品の販売体制確立による直売所の活性化**

- 直売所ココロファームビレッジと連携して「おいしい南信州ふード発信旬間（12月）を実施し、また直売所の目玉商品の拡充に向け商談会の場を活用した加工開発連絡会と直売所の情報交換会（1回）を開催しました。

○ **学校給食等における地元農産物や加工品の利用促進**

- 調理師会と協働し、調理技術講習会（1回）で「おいしい信州ふード（風土）」の調理・試食を行い利用促進に向けての提案を行いました。

＜今後の展開方向＞

- 農山村資源の活用を進めるため、地元食や森林資源の活用研究に取り組みます。
- 小学生を対象にした市田柿の食育事業や栽培・加工体験活動等の取組みを支援します。
- 飲食店や農産加工所との連携による直売所の付加価値づくり支援と直売所マップを通じた直売所利用の広域化を推進します。
- 地元農産物の調理講座やほ場見学会、給食現場と生産者の交流の場の提供及び学校給食向け農産物加工品の開発を支援します。